

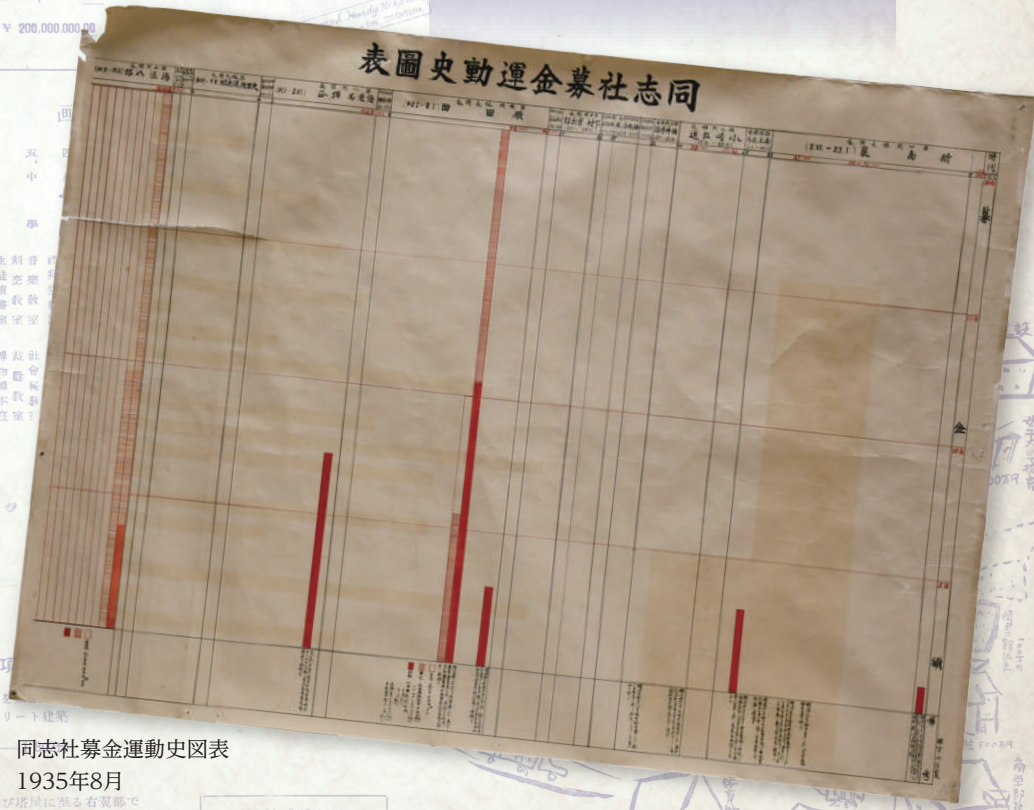
同志社出納簿 新島襄
1875~1879年

同志社の 家計簿

ハリス理化学館同志社ギャラリー 第31回企画展
同志社大学同志社社史資料センター 開設20周年

募金の目的
同志社は天下の公器である。教育救國は同志社の使命である。祖國日本の良心たるべき人材の養成は同志社の目的である。...

Budget
第一期
資金目標額
¥ 50,000,000.00
（總目標額 ¥ 200,000,000.00）
同志社のあゆみを
支えた財政の記録



「徳館」建築要項
アメリカンゴシック様式
近代式鉄筋鉄骨コンクリート建築
建坪—449坪 延建坪—同志社募金運動史図表
工事費—11,500余万円
第一期工事—中央部及び塔屋に至る右翼部で
地上二階 地下一階 塔屋 32米余
階段式大講義室 1,200名収容
講義室 二室 各300名収容
会議室

入場無料

日時：2024年 2月27日(火) - 4月21日(日) 10:00~17:00 (最終入館は16:30)

会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階 企画展示室

休館日
月曜日

主催：同志社大学同志社社史資料センター

同志社の 家計簿

同志社のあゆみを
支えた財政の記録

今から150年前、1874年10月9日、同志社の創立者・新島襄は、アメリカのヴァーモント州ラットランドのグレイス教会で開催されたアメリカン・ボードの第65回年次大会で、日本に学校を設立したいと訴えて、約5000ドルの寄付の約束を得たと言われます。同志社最初の財政の記録「同志社出納簿」にこの寄付金が明記されています。ここから同志社の財政の歴史が始まりました。

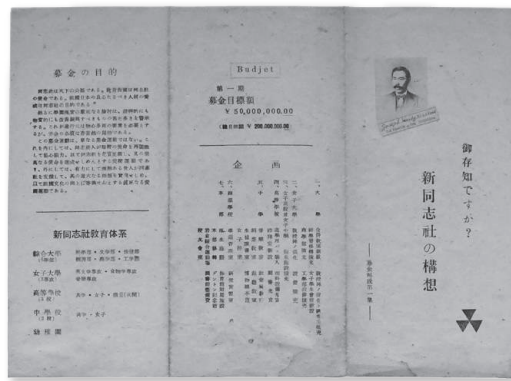
財政の歴史は学校の進路選択の歴史と重なります。例えば、政府は開校当初の同志社に対して疑念を抱いていました。最初期の同志社の財政はアメリカからの寄付がその大部分を占めていたからです。キリスト教を徳育の基本とし、外国資本が流入する同志社は、外国の影響力が及ぶ学校として政府の警戒の対象となり、徴兵猶予などの特典を得ることができずにいました。その解決策の1つが収入構造の改革であり、基本金から生じる利子収入の増額でした。これにより、その後、外国資本への依存度が減少し、のちの徴兵猶予の特典付与に繋がっていきます。このように、学校の歴史は、その時々々の財政状況に影響され、選択肢に影響を与えます。

本展では、既に知られている同志社の歴史上の選択や判断を、同志社の財政状況を把握したうえでもう一度考え直す試みです。資金とその資金が作り出す力が、人や団体に及ぼす影響力がどれほどか、同志社の資料を通じて考えていただければ幸いです。

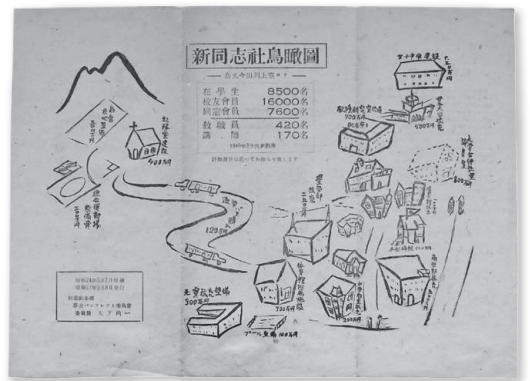


パンフレット

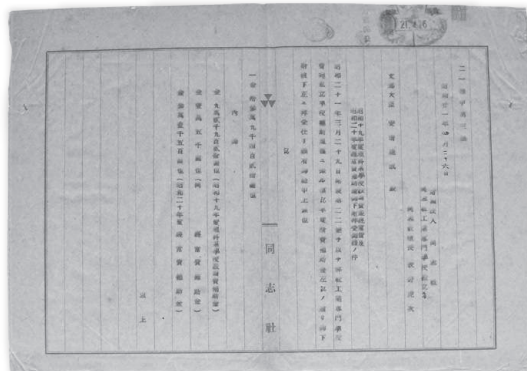
『啓真館募金運動同志社大音楽会』
学校法人同志社 1953年5月9日



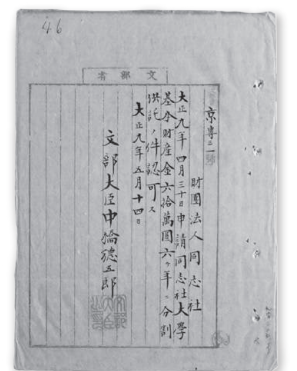
リーフレット「御存知ですか?新同志社の構想—募金解説第一集—」
同志社本部募金パンフレット委員会委員長 大下角一 1949年3月8日



チラシ「『明徳館』建築7,000万円募金運動」
1953年11月1日



発信文書控「昭和十九年度理科系学校設備費並經常費
及昭和二十年度經常費補助金御下付拝受御礼ノ件」
牧野虎次 1946年4月26日付



認可書「同志社大学基本財産
金六拾萬圓六ヶ年ニ分割供託ノ件」
中橋徳五郎 1920年5月14日

ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室 (同志社大学今出川キャンパス)

京都市上京区今出川通烏丸東入 京都市営地下鉄今出川駅下車徒歩5分



お問い合わせ先
ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室
Tel. 075-251-2716
同志社ギャラリーホームページ <https://harris.doshisha.ac.jp/>